

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手この手

2011
10
月号



花ことばは「気高さ」
市内のどこからでも香りが届く
季節です。—キンモクセイ—

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第51号 2011年10月1日発行



今号からの3回シリーズは、文字で表現する井上貴雄さんの作品を掲載します。

文字絵 part1: 井上貴雄

第1回は大和市民活動センターの基本理念を文字絵にいただきました。

何て書いてあるのか、わかりますか？

＜井上貴雄さんからのメッセージ＞

大和市民活動センターの基本理念である「応援、共育、推進」を
家族(母、子ども、父)の形で表現してみました。心の繋がりがや絆
も表しています。

井上貴雄(いのうえたかお)プロフィール

1956年。大和生まれの大和育ち。大学卒業後、
教員を経て、農業をするとともに絵本作家として
活動。平成3年に有限会社三富(不動産管理)
を設立。「夢現スタジオ」代表。大和市消防団副
団長、社会教育委員など。文字を使ったイラスト
が「タウンニュース大和版」に連載。



第3回登録団体交流会が終ったね さあ、次は「カッコーフエスタ」だね 11/5(土)、6(日)開催



カッコちゃん、
バトン、受け取って！



まかせて！
しっかり受け取ったよ。

＜送付の際、同封されているご案内＞

- ・第 46 回連続共育セミナー「市民活動を通してなんでもプラス」のお知らせ
- ・第 6 回市民活動登録団体交流まつり「カッコーフエスタ'11」の申込み案内

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

おいに交流し、ワークショップも楽しみました

9/11(日)第3回登録団体交流会を開催しました



団体交流会のキャラクター
ピーチクパーチク

うれしい。
さっそく、使います。



今日は楽しく
交流してください。

挨拶は[拠点やまと]
の関根会長。



「月夜の晩に～、突然出てきた〇〇さん…」
全員参加で心と体をほぐしました。



柏木学園高校生の「剣舞」。



「ピーチクパーチク賞」おめでとう。



気合を入れて、記念撮影。



「劇団協働」が
名刺交換のルールを説明。

あー、負けちゃった。



新しい何か生まれる
期待がしました。

「このメンバーで何ができるか」をテ
ーブルごとに話し合った結果を発表。



2分間で活動紹介。どの団体
も見事に時間厳守。

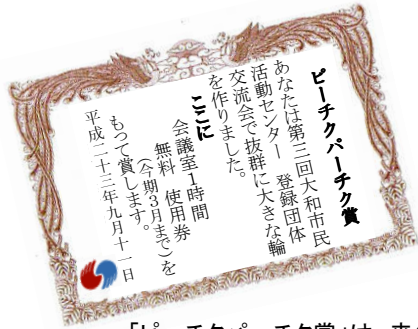


うーん、
説明が難しいな。

どんな活動
ですか？

他者紹介のために情報交換。

ジャンケンして勝ったら〇、負け
たら×を書いて「名刺交換」。



「ピーチクパーチク賞」は、来年
3月までに使ってくださいね。

ワークショップのテーマは 「このメンバーで何ができるか」 コラボレーションの可能性は？

活動目的を「健康」とし、
各々が連携をさぐり、つながり、
大きな一団となって、さらに
拡大、発展させていく。

最初にここに集まった人
の共通項を探した。キーワードは
「支援」。国際支援、女性支援、移動
支援、心の支援。お互いの活動で紹介し
合えないだろうか・・・4つの団体の
情報をA4一枚にまとめて、
配りましょう。

テーブルごとの話し合い

情報過多のなかで、
何が真実か、今、被災地
では何を必要としているのか
など、確かな情報を集め
て行動していくことが
大事だと、確認し
合った。

例えば、11/5(土)、6(日)
のカッコフェスタで認知症
の講演会を開く。映画会やギター
演奏、ネパールティーやフィリピン
のジンジャーティーを飲んで歓談
してもらい、認知症への理解を訴
える。同時に家族のサポートを
する人がいることを周知。心
の悩みを少しでも軽くして
もらう。

HPに当日の
スナップあり
ますよー。



「センター」のある日ある時

9月15日(木)

登録団体交流会に参加したTさんが来館。
「交流会に参加した柏木学園高校の生徒
が礼儀正しく、素直でしつかりしていて、柏
木学園高校のイメージが変わりました。子
育て支援・知的障害児のボランティア活動
を毎週積極的にやっている事も驚きの一つ
でした」と話された。



カッコーフェスタの準備をしています

カッコーフェスタのキャラクター
カッコちゃん



**11/5(土)、6(日)は
第6回市民活動団体交流まつり
カッコーフェスタ'11
～活かそうひろがりの“わ”～**



いつでも、どこでも「盛り上げ隊」

9/11(日)の「交流会」でつながったみなさん。
活動をアピールしたい団体のみなさん。
「市民活動は楽しい」と実感しているあなた。
さあ、あの手この手で盛り上げて、
カッコーフェスタで思いっきり弾けましょう！

どんどん盛り上げていきましょう

- 10月10日(月・祝)
 - 10月15日(土)
 - 10月19日(水)
 - 10月26日(水)
 - 11月3日(木・祝)
- 時間はいずれも 16:00～18:00



☆☆☆☆☆☆☆☆

共育セミナーの“話し手”は「センター」の仲間たち

☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆

☆ ところが豊か
☆ になりました



「みんなの言葉が心に沁みました」

9/30(金)に第45回連続共育セミナーを開催しました

話し手は「くじらのしっぽ」代表の手塚郁恵さん
「こころのつながりをつくる簡単で面白いやり方」

ワークショップはどこ
でもできます。お声
をかけてください。

言葉を受ける人が目を閉じて呼吸を整えるのを待って、「呼んでほしい名前、言ってほしい言葉で話しかけて」とアドバイスを受けてから、ワークショップがスタートしました。

- ・気持ちがやさしくなる感じがした。
- ・励まされるような感じがした。
- ・思わずニコニコしてしまいました。
- ・幸せな感じになった。
- ・大事にされている感じがした。
- ・職場の仲間だなという確認ができた。
- ・待っていてくれる感じがした。
- ・それぞれの人の心が感じられた。
- ・振り向いて呼んでくれている感じがした。
- ・一人ひとりの声に込めている自分がいた。



☆☆☆

などの感想を聞いて、言葉の大切さを実感し、心がつながりました。

☆☆☆

☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆

次回は私、今井が話します

第46回連続共育セミナー

10/17(月) 16:00～18:00 に開催します
「市民活動を通してなんでもプラス」
～手と手をつなぐ地域ネット～

話し手は「なんでもプラス地域ネット」の今井 功さん
「ふれあう」「たすけあう」「なんでもプラス」をキーワードに
問題解決にむけて活動しています。



9月14日(水)晴れ

「センター」に寄ってイラストを描いていた
ら、「いつもとタッチが違う？」と聞かれた。
「きっと老人会で鍛えられているお陰かな」と
答えた。全員編集長♪の老人会と違い、
センターでは好き勝ってに描いて楽しんで
います。この広報紙の表紙やイラストも“あ
の手この手”で応援してください。(N.M)

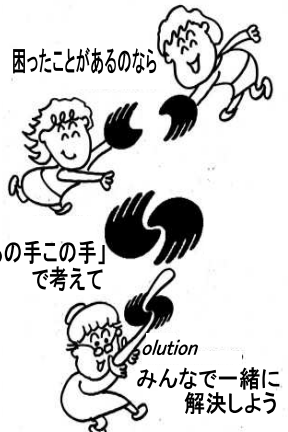
「センター」の
ある日ある時

「センター」の運営は引き続き[拠点やまと]が担っていきます

8/25(木)、市役所で平成 23 年度協働事業等提案結果報告会が開催され、提案された全 7 事業が協働事業として採択されました。現在、大和市民活動センターの管理運営は大和市と市民活動団体である[拠点やまと]による、協働事業として進められていますが、平成 24 年度からの 3 年間も引き続き[拠点やまと]が担うことになりました。「新しい公共」に参加する様々な分野の市民活動団体の知恵と行政の専門性を出し合っって課題解決に臨めば、未来を生み出す社会資源“市民の力”を充分に引出すことが可能になります。

「協働の拠点」となる大和市民活動センターが、まさに協働によって運営されていることに大きな意味があります。市民が担う開かれたセンターとして市民の息づかいをとらえ、多くの人が集まり、顔の見える関係作りの中から、大和市の市民活動がさらに活気あふれるものとなるよう事業を展開していきます。(「拠点やまと」会長 関根孝子)

*協働事業：市民、市民団体、事業者と市が役割と負担を明確にしながらお互いの提案に協力して実施し、社会に貢献する事業のことです。



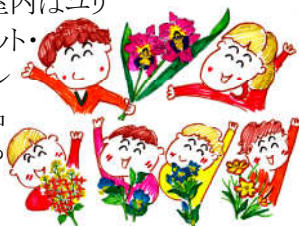
第138回 9/6(火) ～手作りの楽しさを追求～

＜カトリア会＞

粘土工芸(クレイクラフト)で手作りの作品を作って楽しんでるグループです。粘土は2種類あります。

1つは石粉(せきふん)粘土。自由に作品を作り、自然乾燥させてアクリル絵の具を塗り、ニスで艶をだして完成です。もう1つは軽量ソフト粘土を使います。カラー粘土を混ぜ合わせ、色を作ってから作品を作り完成させます。制作中は子育ての話、美味しいランチのあるお店などの情報交換などをして、新しい人間関係が生まれます。玄関・室内はユリ

やバラのお花・飾り皿・バスケット・ネームプレート・壁掛け・ウエルカムボードなどの手作りの作品で溢れ、潤いのある空間となっています。



第139回 9/20(火) ～あたりまえの日常生活を教えたい～

＜大和さくら里親会＞

大和市の里親会は1年半前に相模原市から独立。現在11組の夫婦が会員です。親の病気や経済的困窮、虐待などいろいろな事情で家庭での生活が出来なくなった子ども達を、愛情を持って里親が家庭で養育する。里親の所にくる子どもは何らかのリスクを背負っているの育てづらさがあります。しかし大人との信頼関係が回復して成長していく子ども達を育てる喜びは大きいです。施設にいる子ども達を週末や夏休み、冬休みに家庭生活を経験させる里親、緊急時に預かる里親制度もあります。施設で生活している子ども達は、外から帰ってきたら「ただいま」「お帰りなさい」の声かけ、暗くなったら電燈をつける、明るくなったら電燈を消す、などのあたり前の日常生活ができない。教えると玄関を何回も出入りして「ただいま」を何回も繰り返す、かわいくて抱きしめたくなったりする瞬間だと話されました。



★やまとっこ☆みつ付た ★やまとっこ☆みつ付た ★やまとっこ☆

「センター」のある日ある時

9月22日(木) 晴れ

台風一過。「センター」の周りに大小の枝が散乱。心配していたコブシと桜、イチヨウの大木は無事に立っていた。コブシは3年前の“強剪定”の後、樹勢がなくなり、先日、枝が腐って折れてしまった。このままだと倒れてしまう危険があるとの判断から、枝を切り落とした。台風の前の出来事。かつての見事な花の復活を祈る。

★やまとっこ☆みつ付た★

開会式で忘れられないのが、アルペールビルとアテネです。NHKのオリンピックテーマソングでは高橋真梨子の「遥かな人へ」が好きでした。

(中山みゆき)

ヘルシンキのウェーブのような古橋のラジオ放送。東京の東洋の魔女のテレビ放送。シドニーのメーンスタジアムに揚がる初日の丸。(浅見正明)

長野五輪のスキージャンプ団体。「フナキ、フナキ」の応援と金メダルに抱き合う日本ジャンプ陣。TVの前で泣けたなあ。(村山真弓)

熱血編集後記

テーマ:「オリンピック」といえば...



1984年ロス五輪。右足肉離れの柔道山下選手。終始フェアプレーに徹したラシュワン選手が手を差し伸べ、山下選手を表彰台に引き上げた涙のシーン。(望月則男)

三波春夫が高らかに明るく唄う1964年の「東京五輪音頭」が流れる下(もと)、私は今で言う非正規労働者として、都内をとぼとぼ歩いていました。47年前のことです。(小杉皓男)

1992年バルセロナオリンピック。平泳ぎで史上最年少14歳で金メダルを獲得した岩崎恭子ちゃん「今まで生きてきた中で、一番幸せです。」と語った姿が印象的でした。(櫻井貞代)

東京オリンピック。小学校の家庭科室で刺繍をしながらアベベを見、美しいチャフラフスカに息をのんだ。今でも鮮明に覚えています。(関根孝子)

東京の街を裸足でひたひたと走ったアベベ。後にケニア国内で、自動車事故で亡くなったと報道されたときの驚きと喪失感。次回のロンドンではどんなドラマが?(石川美恵子)



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。
10月号(第51号)をお届けします。

9/17(土)から2泊で山形県酒田市と鶴岡市に行く機会がありました。

鶴岡市では去年4月に開館した市立藤沢周平記念館を訪れることができました。藤沢周平は時代小説作家といわれています。藤沢作品を読まれている方もたくさんおられると思います。傑作のひとつ「蟬しぐれ」はつい6年ほど前、映画化されました。

記念館の一角に家族との日々の暮らしについての紹介がありました。そこに藤沢周平さんのお嬢さんである遠藤典子さんの「父が教えてくれたこと」という文章がありました。メモ帳にその一部を写してきました。「父が私に言い続けたのは普通の生活を毎日続けていけることが本当の幸せである。(幸せというのは)家族が仲よく、病気やケガをしないで、平和に暮らせるというただそれだけのことです」。

翌朝、酒田市にある旅館の食堂でNHKテレビのニュースを見ていたら、東日本大震災で激甚な被害を蒙った宮城県南三陸町志津川地区の母親が「一瞬にしてすべてをなくしました。それまでのあの普段の生活の続きをしたいです」と語っているのを聴き、やはり急いでメモしました。

今回、酒田市に集合したおひとりに東電福島第1原発から4kmのところの大熊町に住んでいた幼稚園の先生がいました。「『3月11日(金)の日、来週は卒園式だよー』と子どもに言ったその日の午後、大地震と大津波。そして原発の事故。園は休園になり、子どもたちはちりちりばらばら。私は小物と銀行通帳と下着を入れたバッグを持って家を出、避難所を転々とし、それっきり自分の家に戻れる見通しなし。やっと8/13(土)、38名の小学校新一年生になっていた36名が全国あちこちの避難、転居先から集合。郡山市のホテルで5ヶ月遅れの卒園式。やっと肩の荷を下ろすことができました。毎日続く普通の生活がほんとに大事で貴重なことだどつくづく……」。

去年亡くなった井上ひさしさんが著書「ボローニャ紀行」(株・文藝春秋刊)のなかで「このところわたしは『平和』という言葉で『日常』と言い換えるようにしています。平和はあんまり使われすぎて、意味が消えかかっている。そこで意味をはっきりさせるために日常を使っています。「平和を守れ」というかわりに『この日常を守れ』という。」と書いている文章に出会いました。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2011/09/30

